発行元　ハリマ産業株式会社　〒270-2241 千葉県松戸市松戸新田129-1　TEL：047-368-2511　FAX：047-368-0204　20211210

料金後納
郵便

HARIMA NEWS

2021 Vol.15

2021年Vol.15　掲載情報

年末のご挨拶
赤泥の環境問題　－ 組子襖への大転換 －
見本帖『江戸からかみ 総合集』

襖とハリマ産業を知ってもらいたくて

ごあいさつ

平素よりハリマ産業をご愛顧いただき誠にありがとうございます。早いもので、今年も残すところあと僅かになりました。年末のご挨拶を申し上げるべきところ、冒頭から申し訳なく思いますが、ここで襖・フラッシュの価格改定についてお伝えさせて頂きたいと思います。この度、資材、ガソリン、電気、人件費等の値上がりにより、襖・フラッシュの値上げをさせて頂かなければならない状況となりました。これまでも値上げの要請をさせて頂いておりましたが、私が社長に就任して以来、ここまでのことはなかったと記憶しております。巷では日本のサービスや物の価格は安いと言われているようですが、ハリマ産業ではお客様に対し適正価格での製品・サービスのご提供を心掛け、資材提供業者様、そして社員の共存を目指した経営を行っていきたいと考えております。今また再びの価格改定となりますこと、何卒ご理解の程宜しくお願い申し上げます。
最後になりましたが、本年も多くの方に支えられて無事に年末を迎えられますこと、感謝申し上げます。
来年もハリマ産業を宜しくお願い致します。

代表取締役　大久保 謙一

ハリマのあゆみ

赤泥の環境問題　－ ダンボール襖から組子襖への大転換 －

前号（vol.14）でハリマ産業の本社工場の外壁材が赤泥であることをご紹介いたしました。本号では赤泥の環境問題とハリマ産業のものづくりについて、少しお話しをさせて頂きたく思います。

赤泥とは、アルミを精製する工程で発生するもので、世界的に処理に困っている廃棄物の一つです。先代の大久保敏行は、赤泥の環境問題に触れたことで自社の製品である「ダンボール製ふすま」（当時）を見つめ直し、「和襖（木製の襖）」への大転換を決意したのでした。ダンボール製のふすまは、その製造過程で環境負荷のかかる材料が使われており、和襖の方が環境に優しいと考えたようです。志は良いとしても、ダンボール製と和襖では製造工程も材料も全く異なるため、機械の入れ替えから材料選定まで、それはそれは大変な道のりだったようです。ハリマ産業では地球環境を思う気持ち一つでダンボール製から和襖に大転換することになりましたが、当時、他のメーカーでも様々な事由によってこの大転換が行われていました。それは主に、和襖からダンボール製への大転換であり、ダンボール製から和襖に転換したのはハリマ産業一社だけでした。つまるところ、ダンボール製の方が生産効率や利益率が良かったのでしょう…。結果として、志一つで突き進んだ先代の決断は英断でした。それはハリマ産業から襖を買ってくださるお客様方が証明してくれています。やはり、環境について考えるということは色々な意味で必要なことなのでしょう。

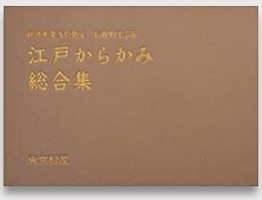
RELEASE

東京松屋　見本帖『江戸からかみ 総合集』に託す未来

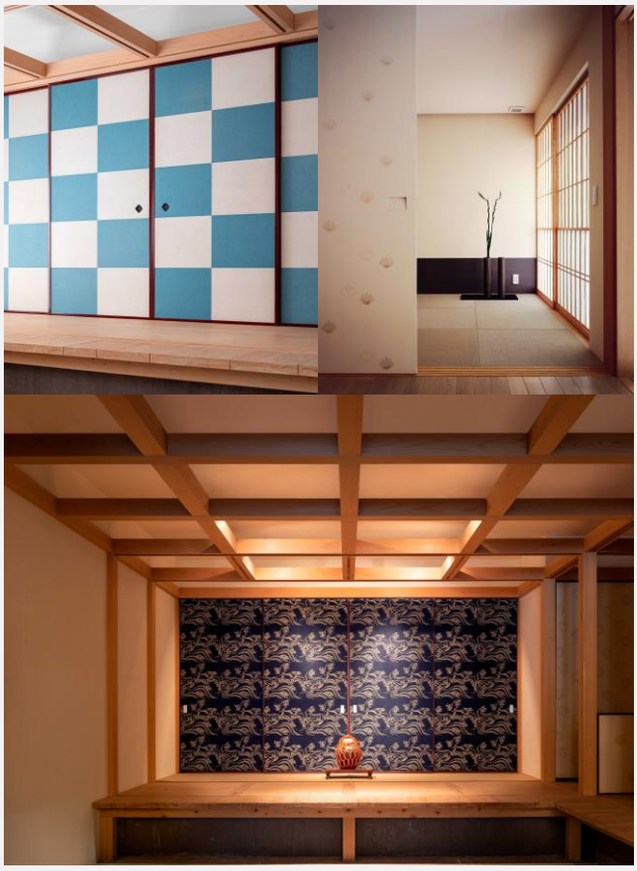
2021年7月、襖紙 見本帖『江戸からかみ 総合集』（株式会社東京松屋）が発売されました。

『江戸からかみ 総合集』は見本帖の域を超えてもはや美術本のような仕上がりです。弊社は襖屋としてこれまで沢山の見本帖を取り扱ってきましたが、これほどまでに示唆に富む芸術的な見本帖には出会ったことがありません。発行元である東京松屋様がどのような意図でこれほど大掛かりな見本帖の制作に取り組まれたのか、本号でご紹介したいと思います。

「江戸からかみ」とは、和紙に様々な装飾を施してつくられた工芸品です。木版手摺りを行う唐紙師、渋型紙を用いる更紗師、金銀の箔や砂子を使って砂子絵を描く砂子師、これら三つの加飾技法をもって「江戸からかみ」と呼びます。紙に加飾をするという文化は平安時代にまで遡り、仏教の経典に金銀箔砂子で加飾したものと、詠草料紙を加飾したものとの２つのルーツがあります。江戸時代になると需要が大きくなり、「享保千型」と呼ばれるほどに多くの文様が生み出されました。そのデザインの中には誰でも一度は目にしたことのある柄が多々あります。



見本帖
江戸からかみ総合集
発行元
株式会社東京松屋
収録数
百六十点余り



東京松屋様の創業は1690年（元禄）。江戸からかみと共に300年以上もの長い歴史を歩まれてきました。この度発表された『江戸からかみ総合集』の素晴らしさは、古き良きデザインへの回帰という単純なものではありません。長い歴史と実績に裏付けられた東京松屋様の深い見識から生まれる「新しい見本帖」であると同時に、300余年の歴史の最先端を走るものです。収録されているすべての紙が「選ばれたもの」であり、日本文化を静かに象徴しています。現代しか知らない弊社のような襖屋をはじめ、和室というものを実はよく知らない住宅関連業の人々にとっては教科書のような側面もあります。今の住宅業界の中に和室のことが解る人間がどれほどいるでしょうか？自分の仕事はわかっていても、全体を理解してコーディネートできる人がいないと言った方が正しいかも知れません。東京松屋様による『江戸からかみ総合集』への取り組みは、業界として高く評価すべきものではないかと感じました。折に触れて少しずつでもご紹介させて頂ければと思っております。とても素敵な見本帖です。襖に興味がない方であっても、美術本として、大人の教養としてお楽しみ頂けるものです。一般の方にはWEBカタログをお勧めいたします。是非ご覧ください。

「江戸からかみ」は平成４年に東京都の伝統工芸品の指定、平成11年に経済産業大臣により国の伝統的工芸品の指定、平成19年には地域団体商標を取得されています。

最後になりましたが、この度『江戸からかみ総合集』の取材にご協力頂きました、株式会社東京松屋 代表取締役社長 第18代 伴 利兵衛(充弘) 様に厚く御礼申し上げます。

木版手摺り

更紗

砂子

江戸時代の小判の版木

戦後復刻した大判の版木